
神田外語大学出版局 創刊の辞

神田外語大学の建学の理念は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。本学は発足以来、この理念にもとづき、言語と文化を二つの柱として研究と教育を展開してきた。歴史の浅い大学ではあるが、その成果は一定の評価を得てきたと自負している。しかし、その成果に満足することなく、つねに新しい活動に挑戦していくことが本学の基本的な姿勢である。このたび、出版に取り組むことにしたのも、そのような挑戦の一つである。

そもそも、大学は知の活動体であり、その責務は先人の学問的業績を継承、発展させ、さらにそれを後世に伝えていくことにある。従来、大学は研究と教育を中心として、その責務を果してきた。しかし、研究と教育のみを重視すれば、大学の関心はみずからの内部に向かいがちになる。その結果、社会との関わりを軽視することにもなりかねない。近年、こうした消極的な姿勢を打ち破り、社会のさまざまな要請に応えることが大学に求められるようになり、大学の側もその知を直接、社会に提供する方法を模索するようになった。出版は、このような大学と社会の新しい関係を実現する一つの方法である。とりわけ、本学が「言葉」を建学の理念の中心においていることを思い起こすとき、言葉の集合体である書物を生み出していくことは、まさに必然性のある活動であるといえる。

出版は、大学から社会への知的な貢献の一つであるが、大学にとっても大きな意味をもっている。研究や教育の成果を書物という形でとりまとめ、社会に送り出すことは、研究者の研究意欲を高め、大学の知的潜在力を活性化する。また、それが学生の学習意欲を向上させることにも結びつくであろう。さらに、出版をとおして社会から得られる反響は、大学にとって貴重な情報である。社会とのコミュニケーションは、大学が新たな知的活動を生み出す重要な契機である。このような知の循環が大学にもたらす利益はきわめて大きい。

規模はささやかであっても、出版によって本学と社会との有意義なコミュニケーションが実現し、新しい知の展開が生まれてくることを希望する。

学校法人佐野学園

佐野 隆治